

広島市平和記念式典派遣事業に参加し

て

成田 詩礼

私は、この事業で広島に行くことが叶い、
八十一年前に原子爆弾が落ちた事実を肌で感
じる事ができました。

広島市平和資料館では、たくさんの被爆者
の詩や体験記・洋服などの当時の物が展示し
てありました。その一つには、黒い人影が残
った階段がありました。それは、原爆が落ち

た時、人が座っていて熱線や激しい光によっ
て焼きついたものでした。資料館の中は、ど

んよりとした空間で、八十一年前の広島もこ

のような雰囲気だったのかも知れません。

広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式

の広島市長の話では、絶対に二度と戦争をし

てはいけないという思いが溢れた演説で、と

ても平和への願いが強いのだと感じました。

子ども代表の平和への誓いでは、原爆が落ち

た県の子どもだからとし、かり原爆が落ち

た事実を知ろうとすることがすごいと思いま
した。

河野キヨ美さんの被爆体験を聞いて、当時
14才の中学生だったキヨ美さんは、8月6日
は学校を休み、爆心地から35kmはなれた自
宅で疎開していた甥に朝ごはんを食べさせて
いたところ、突然大きな爆発音を聞き、山の
向こうにきのこ雲を見ました。夕方には、広
島から多くの怪我人を乗せた汽車が近くの駅
に着き、乗客から「大きな爆弾が落ちて、1

発で広島は全滅した」という話が伝わり、村
中が大騒ぎになりました。広島にいる二人の
姉を探しに、母と翌朝一番の汽車で広島に向
かいました。降り立って、広島の街は残らず
消え、黒い焼け野原になっていました。た
た一発の原子爆弾で多くの人々が亡くなり、
街の中は足の踏み場が無いほど死体が転がっ
ていた事が信じられなく、とても驚きました。
そして、戦争が終わった後も放射線で苦し
み続けている人がたくさんいるのが、とても悲

しい気持ちになりました。そして、信じられ
なかつたです。

これから、被爆者の方が高^{こうたい}齢で実体験や
生の声は届かなくなつてしまいます。だから
こそ、私たちが次の世代へ原爆の恐^{おそ}ろしさや、
被爆者の声を伝えていく事が大切だと思いま
す。そして、悲しい現実でも、向き合い、知
ろうとする事が大事だと思います。
この度は、広島市平和式典派遺事業に参加さ
せていただきありがとうございます。